

すべてを彩るもの

大館中学校 三年 村上 礼

私の心を彩る。地域を彩る。世界を彩る。自然とは身近にあるものだけれど、それほど偉大な力を秘めていることに気づかされた。

私はよく音楽を聴きながら窓の外を眺める。外を見て、言葉の一つ一つを噛みしめてみる。夕焼けやどこまでも続いている青空など、ころころと表情を変える空のおかげで音楽が彩られる。つい最近までは、そう思っていた。

夏休みに入り、私は数年ぶりに仙台へ行った。八戸でよく見かける田んぼや生い茂っている草木はなく、代わりに上が見えないほど高いビル、見たことのない数の人でいっぱいだった。ホテルに着き、やつとゆつくりできるようなになると、私はイヤフォンを取りお気に入りの曲を流した。ホテルの窓から見えているのは、隣に建つビルの壁と少しだけ姿を見せている青い空だけだった。音楽を聴いていると、いつもと何かが違うような気がした。

「あれ？ しつくりこない……。」
音楽を聴いて、そんなふうに思ったのは初めてだった。疲れてるのかなと思ひ、その日はもう曲を聴かずに早く休むことにした。

数日後、八戸へ戻ってくると帰りを喜ぶかのようにまぶしい太陽と青空が迎えに来てくれた。最高の天気だと思ひ、車の中で音楽を流した。

心が晴れるような、熱くなるような、そんな気持ちになる。思わず笑みがこぼれてしまう。

「これだ。やっぱり音楽の力って最強だ。」
そう思ったとき、あの日のことを思い出した。音は聴こえているのに、歌詞が左耳から入って右耳から出ていくような変な感じ。どうしてあのとき、しつくりこなかったのか。自分なりにじつくりと考えてみた。いつもと何が違ったのだろう。そう考えていると、ふと思ひあたるものがあつた。それは花や草木などの自然だ。仙台は八戸よりはるかに緑が少なかった。八戸にはいつも当たり前前に、どこにでもあるから、その大切さがまったくわかっていなかった。

「自然は人の心を豊かにする。」この意味がやつとわかつたような気がする。曲の歌詞、歌い手の伝えたいたものが私の心に染みるのは自然が私の心を豊かにし、余裕をつくってくれたから。初めて気がついて、背景だとしか思つていなかった木々や堂々と咲く花が眩しく輝いて見えた。「音楽を彩るのは空だ。」と思つていたが、それは空だけではなかった。確かに空は青かつたり、オレンジ色になつたり、きれいな星を浮かべたり、様々な表情を見せる。しかしそれは、木や花、自然だつて同じだ。四季によつて咲く花はばらばらで、それぞれに美しい色がある。木は夏だと、緑の葉が日の光に照らされ、きらきら眩しい。秋になると、夏の元気さとは

裏腹に赤や黄色などに染まる紅葉となり、落ち着きながらも美しいと思わせる。冬が来るとすべての葉が枯れ落ちるが、その間は真つ白な雪を被り、

また違う美しさを見せる。生命の強さを感じる春。雪もだんだんと溶け、何もなかった枝から芽がでると、美しかったり、かわいらしかったり、華やかだつたり、それぞれの木にそれぞれの花を咲かせる。もつと細かく観察すれば、たくさん表情が見られることだろう。私たちは、その様々な表情に心を奪われているのだ。

人間が人間に惹かれたり、動物をかわいと思つたりするのは、人間も動物も命という尊いものをもっているから。人間が自然を美しいと思うのは、草も木も花も自然のすべてが生きているから。私はそう思う。自然は生きているから様々な表情を見せる。その、どんどん変わる表情を見るから、人は自然に心を奪われる。自然は私たちの生活を彩り、豊かにしてくれる。だからこそ、もつと大切にしていかなければならない。自然も尊いものなのに、最近では人間が自ら壊しているようにも思える。私が自然の美しさや魅力に気がついたのは最近で、まだ知らないことだらけだ。でも、私みたいに何かちよつとしたことがきっかけで自然に対しての考え方が変わる人がどんどん増えていつてほしい。自然に心を奪われる瞬間がきつとあると

思う。

私は音楽の世界を彩る自然の力を知った。凜と咲く花、どこか淋しげに揺れる草など、様々な表情から、たくさんの感情が込み上げてくる。私は音楽だったけれど、人によって自然の力で彩られる世界は違う。どんな世界だったとしても、自然の力によってそれらが豊かになるのは間違いないだろう。自然とは、どんどん変わる色で私たちの世界を彩る、尊くて偉大なものなのだ。